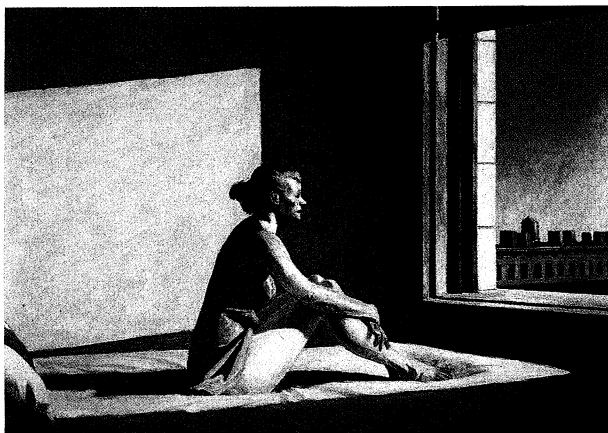


# 美術館だより

## 企画展案内



▲エドワード・ホッパー「朝日」1952年



▲メアリー・カサット「子供をあやすスザン No.1」1881年頃

## アメリカの遺産

——絵画の150年

会期 6月27日(土)~8月2日(日)

会場 福島県立美術館

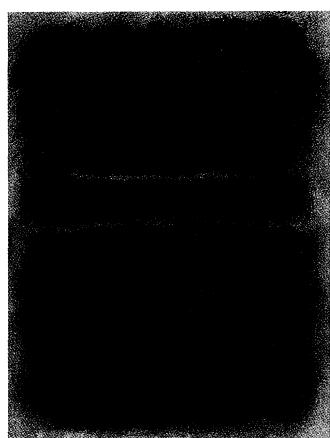
アメリカ美術は、十九世紀以降、ヨーロッパの伝統文化や前衛美術とかかわりながら、次第に独自の性格を育み、二十世紀後半には世界的な影響力を持つようになりました。日本の美術が戦後新しい展開をすすめる上でも、このアメリカ美術が大きな影響を及ぼしたことは周知のとおりです。

本展は、十九世紀から現代までのアメリカ美術の主要な動向を系統的に紹介するわが国で初めての試みとなります。広大な自然の驚異を賛美したハド

ソン・リヴァー派の風景画から、ホーマー、エイキンズ、ホッパー、ワイエスと続く独特の写実主義の系譜、カサットらの明るく華麗な色彩を持つアメリカ印象派、そして、戦後のロスコ、マザウエル、ウォーホル、ジム・ダイン、ボロフスキーラの現代美術における多彩な表現が打ち出されます。そういう意味からも、本展は、アメリカ美術百五十年の歴史展望し、同時に「アメリカの心」に触れることでのできる絶好の機会となるでしょう。



▲ジョージア・オキーフ  
「紅葉——ジョージ湖、N.Y.」1924年



▲マーク・ロスコ「無題」1967年

休館日	観覧料
夜間開館	一般・大学生八二〇円(六六〇円)
高校生六一〇円(四六〇円)	
小・中学生四一〇円(三〇〇円)	

館は午後七時半まで)  
同展会期中の毎週土曜日は開館時間  
を午後八時まで延長します。(最終入